

コロナ禍で奮闘する酒販店社長 街の灯りを取り戻したい！

コロナ禍で飲食業界を取り巻く環境はますます厳しい。門真市の業務用酒販店、木村酒類販売の木村茂社長（58）は、コロナ以前から「かどま元氣バル」

で飲食店と市民とをつながけてきた。京阪沿線の「まちバル」の先駆的存在だ。このイベントは飲食店経営者の勉強



2階事務所で飲食店オーナーに経営アドバイス



木村酒類販売

会・「門真飲食店元氣塾」から発案されたもの。規制緩和・消費者の購買行動変化・組織小売業の発展などによって、酒販店を取り巻く環境変化を憂え木村社長が得意先との勉強会を発足。その思いに共感した飲食店オーナーたち。一店舗だけの利益追求ではなく、飲食店全体が潤うアイディアだ。酒販店、飲食店、

顧客のそれぞれの「三方よし」の理念が、店と客、店と店をつなげていき、いつしか自然と街が活性化していた。

しかし、コロナが無情にも、飲食店・酒販店を直撃した。今、木村社長は、得意先の窮状と向き合い、伴走を続けている。2階の物置部屋を事務所に改装。飲食店オーナーへの経営アドバイスや小規模事業者持続化補助金申請に必要な経営計画作成の書類づくりをサポート。すべては「得意先に生き残ってもらいため」。街の灯りが消えてすでに2年余り。飲食店が元氣を取り戻しただれもが笑顔になる日を待ち望んでいる。